

# HOPE<sup>plus</sup>

【市立芦屋病院だより】



## 新任Drのご紹介



おおにし まさゆき  
**大西 雅之**

**専門分野**  
整形外科

**趣味**  
釣り

### 先生から一言！

10月から赴任致しました大西雅之と申します。高齢化が進むとともに、軽微な外傷による骨折はもちろんのこと、骨粗鬆症や変形性膝関節症などの変性疾患に悩まされることが多くなっております。地域の皆様の健康寿命を保つために、お一人お一人にあった医療を提供できるよう努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



はたの まい  
**幡野 舞**

**専門分野**  
緩和ケア内科

**趣味**  
茶道、カポエイラ、フルート演奏

### 先生から一言！

9月から緩和ケア内科に赴任致しました幡野舞と申します。「緩和ケア」とはただ死を待つための科ではありません。その方がその方らしく最期まで生きぬき、「あー良い人生だった」と言えるように、お手伝いさせていただきます。また、必要に応じてご家族のケアも行っていく科です。どうぞ宜しくお願い致します。

**参加費  
無料**

## あしやホスピタルフェスタ2016のご案内

**日時：11月6日(日) 11時～16時**

**場所：市立芦屋病院**

今年も「あしやホスピタルフェスタ2016」を開催します。人気の血管年齢測定や骨塩定量測定などの健康コーナーから、コンサートやゲームなど大人から子供まで楽しめる各種催しを職員が企画しています。入場は無料となっておりますので、皆さんお気軽にお越しください。

**当日は、芦屋セントマリア病院～芦屋病院間で病院バスを運用しています。**

芦屋病院ホームページで最新情報をお届けしています。

<http://www.ashiya-hosp.com>

ホスピタルフェスタに関するお問い合わせは…

市立芦屋病院  
総務課 TEL **0797-31-2156**(代表)

西浦哲雄病院長による  
健康講座も開催！

「老化を防ごう」

11時15分～



昨年のホスピタルフェスタの様子



整形外科よりお知らせ

～人工関節センターがスタートします～

当院では人工関節センターが10月より活動を開始します。これは主に変形性ひざ関節症の治療に専門化した部門横断的センターです。

近年、変形性ひざ関節症により、歩行困難、寝たきりとなる高齢者が急増していますが、QOL(生活の質)改善や介護負担の軽減のためには人工関節手術が大きな力となります。市内では今後、年間100件ほどの手術が必要とされ、市立病院としての対応が急務でした。



人工関節手術では、スタッフの習熟、感染の抑制、合併症のコントロールが重要ですが、これには部門横断的な医療チームと専用の設備を備えた治療センターが必要です。

当院での手術は膝関節外科を専門とした医師、トレーニングを受けた専従の手術スタッフにより手術に適したクリーンルームで行われます。また、糖尿病や心臓病などの合併症を持った患者さんも、術前はもちろん、手術後の合併症に対応できる内科系専門医によるバックアップ体制も取っており、安心して手術を受けることができます。



ひざ痛でお悩みの方、開業医の先生から手術を勧められている方はぜひ一度ご来院ください。手術適応の判断や手術法の選択、説明など患者さんの不安や疑問にお答えします。

予約は地域連携室(0797-31-2156(代表))で承っております。  
※かかりつけ医をお持ちの方は紹介状をご持参ください。

10月の院内行事



**芦屋病院 マチネーコンサート** ※毎月1回 日曜日に開催

日時 ● 10月16日(日)14時30分～  
 場所 ● 外来ホール 黄色いピアノ前  
 内容 ● 指先からこぼれるメロディ  
 出演 ● 手話歌グループあしや  
 加藤純子(うた)・金澤佳代子(ピアノ)

**両親学級** ※毎月第2土曜日開催

日時 ● 10月8日(土)10～12時  
 場所 ● 3階東病棟  
 内容 ● お産の経過・赤ちゃんとお風呂  
 対象 ● 妊娠22週以降の妊婦とパートナー5組  
 問合せ ● 産婦人科外来(電話は13時～16時)

**糖尿病教室** ※毎月第2金曜日開催

日時 ● 10月14日(金)13時30分～15時  
 場所 ● 病棟2階 講堂I  
 内容 ● 運動療法・食事療法  
 ～間食・外食も怖くない!～  
 講師 ● 理学療法士、管理栄養士  
 問合せ ● 栄養管理室

**秋の公開講座**

時間 14時～15時30分  
 場所 芦屋市民センター401号室  
 参加費 1回200円  
 問合せ 芦屋市立公民館 (0797-35-0700)

日程	内容	講師
10月8日(土)	人間ドックについて ～健やかに生きるために～	人間ドックセンター長 松梨 達郎 医師
11月5日(土)	あなたの骨は大丈夫? ～コツコツと学ぶ骨粗鬆症のお話～	整形外科 清水 憲政 医師
12月3日(土)	骨盤臓器脱のお話 ～子宮・膀胱が下がる病気～	産婦人科 木村 俊夫 医師

## 認定Nsのご紹介



当院では今回新たに3名の看護師が「認定看護師」の資格を取得しました。  
今後も看護の質向上の為、認定看護師の育成に向けて取り組んでまいります。



認知症看護認定看護師  
津久茂 康予

超高齢化社会を迎えた今日、高齢者の4人に1人が認知症またはその予備軍と推計されています。認知症は若年者を含めて誰にでもおこりうる病気で、今後さらに増加する見込みがあります。

認知症看護認定看護師は認知症の発症から終末期に至る病状管理、療養生活における環境を整え、認知症の方々の声にできない「声」を代弁し、「その人らしさ」を大切に一人ひとりに最適なケアを提供できるよう活動していきます。また、他職種とも協同し患者さんやご家族の思いに寄り添い、安心して、在宅、地域に戻れるようサポートしていきます。そして芦屋病院の認知症看護の質の向上、人材育成に力を注ぎ、院内に留まらず地域に貢献出来るよう、努力していきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。



緩和ケア認定看護師  
江頭 佐都美

2002年、世界保健機構(WHO)は緩和ケアの定義を改訂し、その中で第一の目標を「苦痛の予防と解放」、第二に「QOLを改善するためのアプローチ」、第三に「病気の早期からの介入」とし、その対象を患者さんとその家族と定義しています。このように、早期から緩和ケアを受けることにより、病気に伴う症状が和らぎ、これまで通りの暮らしの継続や、将来の人生設計に役立ちます。

緩和ケア認定看護師は、病気だけでなくその人のライフ(生きてきた過程)に焦点をあて、どのようにすればその人らしいQOL(生活の質)が向上できるのか、ご家族を交えて共に考え、在ることを専門とします。皆様との対話を大切に、希望が実現する方法と一緒に考えてまいります。また、緩和ケアは、医療チームで行います。様々な職種と連携をとりながら、チーム一丸となって取り組んでまいります。医療者にこんな相談をしても良いのだろうかと思わずに、暮らしの中に緩和ケアを身近に感じていただき、ご活用ください。



慢性心不全看護認定看護師  
中岡 史絵

慢性心不全患者の特徴として高齢で心不全以外にも疾患がある場合が多く複数の薬物治療を受け、再入院率が高いことが研究から明らかになっています。なかでも1年以内の再入院率は35%以上と非常に高くなっています。入退院の繰り返しは患者さんやご家族にとっても精神的、経済的な負担となります。再入院の誘因は水分・塩分制限の不徹底、過労、治療薬服用の不徹底など日常生活で予防可能な因子が占めています。そのため心不全の管理方法を知って実行することで再入院率が減ることも判明しています。

慢性心不全看護認定看護師は、患者個別の身体的・精神的・社会的な特性をアセスメントし、在宅療養を見据えながら必要な支援やケアを見だし、日常生活の調整を行うことを専門としています。実行可能な心不全の管理方法と一緒に考え、心不全の進行を遅らせながら日常生活を送ることが出来るように、多職種間で連携をしながら支援していきたいと考えています。

## 市立芦屋病院・県立西宮病院「周産期ネットワークシステム」について

市立芦屋病院・県立西宮病院「周産期ネットワーク」とは、**妊娠前期及び中期の妊婦健診は近くの市立芦屋病院で、分娩は県立西宮病院で**というシステムです。

現在当院では分娩の取り扱いは行っておりません。しかし、安心・安全な出産ができるよう産科スタッフが充実している県立西宮病院と連携し、「周産期ネットワーク」を構築しています。当院では妊娠前期及び中期の妊婦健診と分娩後、産褥期に希望に応じて当院へ転院し療養していただくことが可能です。



妊娠初期・中期 → 妊娠 36 週 → 分娩 → 産褥 1 ヶ月



分娩後の産褥管理は当院できめ細かく行っています。助産師外来やおっぱい外来、両親学級など周産期指導にも力を注いでいます。核家族化や産婦の高齢化に伴い、家族の援助や協力も得難い状況で、赤ちゃんの扱い方を学ぶ機会が減っているため、当院では赤ちゃんの専門家である助産師による分娩後のケアを充実させています。

産褥期の入院は県立西宮病院以外で分娩された方も受け入れていますのでお気軽にご相談下さい。

妊婦検診は産婦人科外来へ、産褥期の入院については東3階病棟へお問い合わせ下さい。

# 事業管理者 のつぶやき

市立芦屋病院事業管理者 佐治 文隆

## 背筋をのばして

わが国の少子化の原因の一つに、「結婚しない（結婚できない？）」男女が増えたことが挙げられます。昔はセミプロ的なお見合いおばさんや親類のお節介なおばさんが結婚の世話をしていました。最近ではインターネットの出会い系サイトや事業としての結婚仲介業がこれに代わってきています。しかし、できるだけ自然な形で異性と知り合いたいと思うのは常なのか、合コン（合同コンパ）がけっこう出会いの場になっているようです。私たちの若い頃は合ハイ（合同ハイキング、今や死語です）がそれでした。もう少しオシャレな場はダンパ（ダンスパーティ）で、こちらは公然とペアを組めるのですから人気がありましたね。とくにクラブ活動の資金集めで開く医学部主催のパーティはパー券（パーティ券）を売るのがに苦労しませんでした。

ダンスパーティでダンスが踊れないと話になりませんから、私もダンス教室で社交ダンスを習いました。教室で教えるのはいわゆる競技ダンスの先生で、私のような不純な目的のものであっても、ブルースから始まり、スローフォックストロット、クイックステップ、ワルツ、ルンバ、チャチャチャ、ジルバ等と進みます。私はとても到達できませんでしたが、上級の究極はタンゴです。タンゴは南米アルゼンチンで生まれ、その後本場アルゼンチンで発達したアルゼンチン・タンゴとヨーロッパで発達したコンチネンタル・タンゴの2種類があります。社交ダンスのタンゴは後者のコンチネンタル・タンゴです。

アルゼンチン・タンゴの伝説的ペア、マリア・ニエバス、ファン・カルロス・コペスを描いたドキュメンタリー映画「ラスト・タンゴ」が今夏公開されまし

た。14歳と17歳で知り合い、半世紀にわたってパートナーだった二人の愛と憎しみ、葛藤をインタビューで明らかにしていきます。それにしても全編を流れるタンゴ・ミュージックと華麗なダンスには目を奪われます。若いときはもちろんのことですが、80歳になっても華やかさと艶やかさを失わないマリアには驚きます。パートナーとの絡みも年齢を感じさせません。その源の一つは、姿勢にあると気付きました。生涯を「見せる」「見られる」立場のダンサーであり続けたせいでしょうか。

私の幼馴染に元ファッションモデルのA子ちゃんがあります。経験を生かして、ビジネスマン対象にテーブルマナーやトータルコーディネートのを主催する一方で、シニア世代にいつまでも生き生きとして過ごすための講演活動をしています。日野原重明先生が会長として発足した「新老人の会」では「さっそうクラブ」講師を担当、美しい歩き方と素敵な立ち居振る舞い方など「歩く、着る、話す、装う、飾る、食べる」といったオシャレからマナーまでを楽しい話術と実演で伝えています。とくに歩き方にはうるさく、さすがファッションモデルだっただけに古希に近い今も背筋がすっと伸びて美しいスタイルです。たまに会うことがあると、「さじくん、歩き方よ！背筋をのばしてね！」とされます。

(2016.10.1)



事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧ください。

### 市立芦屋病院 ご案内



※ 病院ネットワークバスもご利用ください 無料

### 交通案内

JR 芦屋駅、  
阪急芦屋川駅から



タクシー  
約7分



バス  
約25分  
JR芦屋駅、阪急芦屋川駅のりば2番



徒歩  
約30分

### 市立芦屋病院の理念

#### 病院理念

あい（愛）・しあわせ（幸福）・やさしさ（優しさ）

#### 基本理念

芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します  
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します



日本医療機能評価機構 認定施設(3rdG:Ver1.0 一般病院2)

## 市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1  
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822  
ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>